

令和5年度みやぎ観光振興会議石巻圏域会議概要

【委員からの主な御意見】

(1) 第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況・今後の目指すべき姿

- ① 石巻市と連携して大型船の誘致活動を行っているが、紙媒体で説明を行っている。このようなときは、動画でPRできればよいと思う。デジタル動画による観光PRが大事である。
- ② 体験型のイベントについて、女川町ではふるさと納税で、スキューバダイビングの資格が取れる活動を行っている。石巻市でも寿司にぎり体験などイベントを行うべきである。
- ③ どの市町村も食をPRしているが、その中でいかにアピールしていくかが重要。食と体験型のイベントなど他の要素を結び付ける必要がある。
- ④ 奥松島がベストツーリズムという賞に選ばれた。このようなことをインバウンド向けにPRして、誘客に繋げられるのではないか。
- ⑤ 昔からある駄菓子屋などの地元の観光資源を掘り起こして、紹介するのもよいのではないか。
- ⑥ 萬画館では毎年4回企画展を行うが、その内容によっては来館者数も増える。それだけマンガやアニメの誘客力は高いので、そこを活かしていきたい。
- ⑦ 各市町などでアニメなどを活かしたPRを行っているが、個々で行うだけでなく、県がとりまとめて、県全体でマンガ・アニメをPRしてはどうか。
- ⑧ 食とトレイルを活かしてインバウンドに力を入れるのが良いと思う。そのための環境整備が必要である。

- ⑨ 川開きの渋滞など、今の観光の移動方法は自家用車がメインだが、渋滞を起こさない誘客が大事である。
- ⑩ これから東松島市では道の駅の新設などイベントが目白押し。PRしていきたい。
- ⑪ 観光地の景観を良くしていきたい。自分たちが良いと思わなければ、誘客するわけにもいかない。住んで良かったと実感できることが大事である。
- ⑫ 川開き祭りのときなど大型イベントのときは、電車の本数を増やしたりしている。ナイトコンテンツはとても良いと思う。
- ⑬ ナイトコンテンツに力を入れたい。KIBOTCHAでは竹灯りというものを作る体験している。石巻圏域全体でナイトコンテンツに力を入れれば宿泊業にとっても良い。
- ⑭ お試し移住ツアーで、いわゆる観光地ではないところにも魅力があると発見した。ホテルなどの宿泊者だけではなく、ゲストハウスや民宿に長期滞在しているような人のニーズも拾っていくべきである。
- ⑮ 道の駅と各観光施設との横のつながりを強化していきたい。
- ⑯ 観光関連事業は多額の費用が必要となるため、県予算の増額を希望する。
- ⑰ トレイルが人気なので、さらにPRに力を入れていただきたい。
- ⑱ 圏域内ではかなりのイベント数があるが、地元の人々の来場が多い。もっと外部から人を呼べると良い。
- ⑲ みやぎ観光振興会議及び石巻圏域会議は地域の意見を吸い上げる貴重な場。今後も継続して欲しい。
- ⑳ インバウンドに力を入れていくべき。今、石巻圏域に訪れる海外旅行者は2、3倍まで増えている。語学のみならず、紙幣両替ができる場所を増やすなど、面的な対応で迎える必要がある。

- ⑳ トレイル、オルレなどの人気は増加しているが、もしその最中に地震が来たらどうするか対応ができていない。避難経路や施設を整備し、安心・安全を PR ポイントとしても良いのではないか。

(2) 今後の観光振興施策と財源確保の方向性

- ① オルレなどはインバウンド人気も高い（特に欧米）が、そのような人たちは宿代を気にする傾向が強い。
- ② 東京などでは、宿泊料が高額でも構わないという層から宿泊税を徴収しているため、気にならないという人が多いが、宮城県では一律300円を全ての層から取ることになる。免税点を引き上げたり、宿泊料に応じて税額を変更するなどの対応が必要ではないか。
- ③ 1泊の宿泊料が高ければ、税額はもっと高くても良いのではないか。
- ④ 宿泊税については、どのくらいの規模を見込んでいるのか、用途はどのようなものかが大事である。
- ⑤ 宿泊税導入の論理は理解した。導入はやむを得ないと思うが、用途について都市部のコンサルなどに頼りがちではいけないので、地域の人が納得できるような用途として欲しい。
- ⑥ 税率は2段階か3段階にし、免税点を引き上げたほうが良い。あとは幼児は課税対象外とするなどの対応も必要だと思う。

(3) 宮城県観光連盟のDMO化について

- ① DMOのうちのM (Managment/Marketing) が大事である。